

2015年FDシンポジウム「学生のアクティブ・ラーニングを促すFD活動」

法学科におけるeポートフォリオの取り組み（1）

2015年3月10日

静岡：共通A棟5階大会議室

浜松：S-Port 3階大会議室

静岡大学では、「学務情報システム」を用いて、「eポートフォリオ」を運用しており、法学科では、学科の教育内容・活動の実態を踏まえ、またいわゆる「出口保証」に向けた一つの試みとして、法学科生向けにカスタマイズした「キャリアポートフォリオ」の様式を作成し、今年度後期より、全学生（1年生～3年生、4年生は任意）に活用を必須とし、運用を開始した。

■主な狙い

- (1) 大学での学びの記録をとる（大学生生活における目標活動成果のサイクルを蓄積する）ことで、これから大学生生活をするにあたりどのような目的意識を持てば良いのか、定期的に振り返る機会を設けるため。
- (2) とりわけ将来のキャリア形成のために現在の学びがいかに活かされるか、これから何を学ぶべきかを意識化するため。
- (3) さらに、就職活動中の面接に向けて、学生がこれまでどういった経験を積み、知識を学び、成長したかを把握する際に、ポートフォリオの記載内容を役立ててもらうため。

■具体的な運用方法

- (1) キャリアポートフォリオのうち「学習成果シート」の活用を法学科の学生全員（1年生～3年生、4年生は任意）に必須とし、「指導教員」が担当学生一人一人のポートフォリオを担当・サポートする（「学習成果シート」の位置づけについては、資料1「キャリアポートフォリオ」〔教務課作成〕を参照）。
- (2) 学生は、学期（半期）ごとに、学期始めに目標項目を入力、学期末に自己評価と達成度を入力し、「指導教員」が記載内容を読み、既読ボタン・コメント等を活用し、学生指導・進路指導の材料とする（資料2「キャリアポートフォリオ：各学期内の作業サイクル」〔教務課作成〕参照）
- (3) 「学生成果シート」の構成は、主として、以下の通りとなっている。特に、法学科固有の教育内容やアクティブ・ラーニングを含め、学生実態に合わせた構成とした。（資料3「静岡大学キャリアポートフォリオ操作概要 法学科版」6-7頁参照）

■実際の利用状況（資料4「平成26年後期法学科ポートフォリオ利用状況調査」〔教務課作成〕参照）

- (1) 教員への連絡（学科会、メールを一度配信）。学生への連絡（ゼミを通して資料配布、一斉メールを3度配信）。初年度は、学生に「必須」としたが、成績評価の前提とはしなかった。
- (2) 1～2年生で、約80%を越える提出率（締め切り2月15日）。*ただし、提出上のミス、「提出ボタン」を押さなければ提出できないことを理解していない事例が複数あった。また、達成度の数値のみを打てばよいと誤解していた事例も複数あった。
- (3) 教員の側では、「既読ボタン」を押すことを必須とし、「コメント欄」については自由裁量とした。2月末時点で、「既読ボタン」利用率（約70%）、「コメント欄」利用率（約20%）。*教員の既読締め切りを作らなかつたため、3月以降の入力者が数名いた。

■実施後の教員からの反応

- 全体的には、継続していくことに対して概ね賛成の声が多かった。
- 「成績や授業態度を通じてしか見ることのできない学生の別の面を知ることが出来る点で、有益であると感じた（例えば、ボランティア活動等）」
- 「記載内容を通じて、学生自身がどの点に重きを置いているのかを知ることが出来た（例えば、趣

味に重きを置いているのか、社会状況には関心が無いのか、など)。」

- ・ 「学生が、自分のことを文章にして、客観視してみる機会があるのはよい。」
- ・ 「就職のエントリーシート、面接用シートで質問される項目と重複しているため、丁寧に書いている学生にとっては、就職の際に、役立つ内容となっている。」
- ・ 「1年生の時、優秀な学生が、その後、中だるみするケースが多いが、そういった学生の自律心を養う上で有効ではないか。」
- ・ 「学生カードだけでは分からない学生の状況が見られてよい」
- ・ 教員から、負担感の面での不満は見られなかった。

- ・ 一方で、細部については、指摘も多かった。
- ・ 「項目が細かすぎて、役立つ内容になっていないのではないか。一つの項目を多くして深く考えさせる必要があるのではないか。」(逆に、「この項目立てが就職に対応していて適切である」、という意見もある。「一つの項目を短くして、記録的な要素を多くする意味もある」、との意見も。)
- ・ 「後の計画立案・実行を誘うような作りになっていない、学生が主体的に記載しようという項目立てになっていないのではないか。」
- ・ 「学生指導の面では、目標との関係で履修指導なども重要であるが、その点が欠けている。」
- ・ 「自分の思いを書きすぎている学生がいる」(就職のために客観的に自分アピールする視点が欠如)。
- ・ 「よく書いている学生とほとんど書いていない学生に分かれるが、書いていない学生については、プライベートなことにも関わるので、どこまで書かせていいのか判断が難しい。」
- ・ 「自己評価などが、高すぎる学生がいる」。逆の事例も。(自己評価が適切か。)
- ・ 「(1年生については) 学生との距離感があるため、読むモチベーションがおきにくい。」

■今後の課題(1) 運用上の課題

- ・ 就職支援課との連携(資料5「eポートフォリオシステム」参照)。
- ・ 締め切り時期の前倒し。インターシップのエントリー時期等に配慮する必要。教員が学生に指導できる時期がよい。次年度は4・10月中旬目標→7・1月中旬成果達成を記載。
- ・ 学生の作業が、形骸化せずに、実質的に意味あるものとして、どう運用を継続していくか。
- ・ 学生に対する初年度の指導が重要になる(新入生セミナー、就職ガイダンス等での説明の必要性)。
- ・ 教員の作業も、形骸化しないかたちで継続できるか。教員が意識をどう共有をどうするか。
- ・ 教員とつながりの薄い1年生における指導体制をどうするか。
- ・ 法学科版のマニュアルの意味があったのか。マニュアルを読んでいない事例がみられる。
- ・ 記載事項は細かすぎるのか、現状でよいのか、意見が分かれている点についての検討。

■今後の課題(2) システム上の要望

- ・ 教員がみる画面上で、「既読」と「未読」の区別がつくようにしてほしい。
- ・ 教員が「コメント」をした際に、学生へ通知する連絡機能がほしい。
- ・ 学生が「提出」した際に、教員へ通知する連絡機能がほしい(多数学生を抱える教員の場合、通知が多すぎるのはかえってよくないか?)。
- ・ 教員が差し戻しをした際に、通知機能がほしい。
- ・ 教員が、学外から、操作できる設定へ変更してほしい。長期出張時の対応も可能になる。
- ・ 教員閲覧画面上に、既読ボタン率を表記してほしい(現在、コメント率のみ記載)。
- ・ 各年毎の目標、成果を、一覧で見ることにはできないか。*就職活動時に振り返るためには必要。
- ・ コース制をとっている学部・学科においては、複数教員が見られる仕組みが必要。
- ・ 2年生になる前の3月、あるいは2年生の4月の時点で、2年生担当教員が閲覧可能なかたちにしてほしい(学科内対応、学部事務の対応の問題、ただし、システム変更でも対応可?)。

キャリアポートフォリオ

資料 1

利用開始のご案内

平成26年4月から、学務情報システム上で『キャリアポートフォリオ』の機能が公開されます。

★
使い方の詳細は、学務情報システムトップページに掲載のマニュアルをご参照ください。



学修成果シート

Liveノート

自分史

大学で事前に設定した項目別に、各学期の目標と活動成果を登録する。

ポートフォリオ
の中心機能

◆ 6つの入力区分

- 大学での学び
- 大学外での学び
- 課外活動の取り組み
- パーソナリティ
- キャリアデザイン
- その他

学期目標に関連させながら、学生自らが短期目標等の記事を作成する。

3種類の様式

短期目標
管理

レポート
公開

自由記述

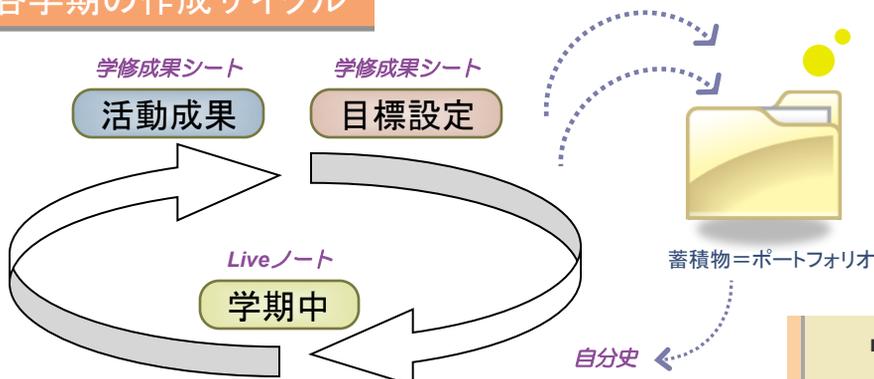
3年次以降にこれまでの記録をまとめ、就職活動等につなげる。

補助的な機能

入力項目

- 企業別シート
- パーソナリティ/キャリアシート
- 学校活動歴シート～学業関係～
- 学校活動歴シート～課外活動関係～
- 履歴シート

各学期の作成サイクル



ポートフォリオのねらい

- 蓄積した成果を就職活動で利用
- 記録する課程での学び

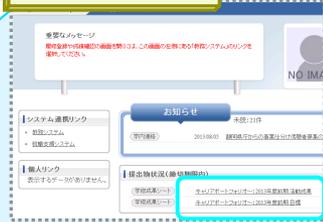
■ ポートフォリオ運用支援連絡会 ■

大学教育センター／学生支援センター／情報学部学習
ポートフォリオ運用WG／教務課／就職支援課

※ キャリアポートフォリオの利用は、学生・教員ともに任意です。

学期始

ホーム画面のリンクから移動



学期の目標を入力

目標入力画面のスクリーンショット。入力欄には「大学での学び」「専門分野の学び」「専門外の学び」などの項目があり、それぞれに目標を入力するようになっています。

目標の入力区分があらかじめ提供されています。全てに記入する必要はありません。

学期中

学習、サークル等
大学内外の活動



エントリーシートや
就職面接で活用



学生本人



Liveノートに活動
記録を入力

Liveノートの投稿画面のスクリーンショット。投稿者情報、タイトル、本文、タグ設定などの入力欄が確認できます。

自分史

3年次以降、適宜
まとめに使用する。



学期末

閲覧(コメント入力)

投稿の閲覧画面のスクリーンショット。コメント欄があり、他のユーザーからのコメントを確認・返信できる様子です。

指導教員
就職担当職員



自己評価を入力

自己評価入力画面のスクリーンショット。学期ごとの達成度を評価するための入力欄が複数用意されています。

達成度を入力(5段階)

達成度入力画面のスクリーンショット。5段階の評価スケールが示されており、各項目に対して達成度を数値で入力するようになっています。

閲覧・コメント入力



友人・ゼミ生

指導教員

学期毎に取り組み
状況をファイリング



ポートフォリオ

学期目標に対応したタグを、Live
ノートの各記事に設定することで、
活動記録を関連付けます。

[3] 入力項目と評価基準

法学科の学生向けに提供されている目標区分や、自己評価の意味合いについて説明します。

■ 学修成果シートに設定されている目標区分と記載内容の説明は、下表のとおりです。

目標区分	説明
(1) 大学での学び1	
専門分野の学習	法律系・政治系科目の中で、どの科目・分野に力をいれて学習し、どのような成果が得られましたか。例えば、普段の授業や予習復習、図書館で行う調査など、積極的な取り組みをしましたか。具体的にどのように取り組んだのか、記録して下さい。
専門外の教養の学習	専門以外の科目で、特に力を入れて勉強した科目・分野は何であり、どのような成果が得られましたか。大学での教養科目、あるいは他学部・他学科の授業を聴講するなどして、バランスのある知識を身につけることも重要です。特に大学の課程で得た、こうした広い教養について記録して下さい。
ゼミ等での報告・学習	就職活動では大学での専門的な学習内容を問われることがあります。ゼミ（専門演習、卒業演習、新入生セミナーなど）で、どのような勉強をし、どのような報告をし、また、どのような成果が得られましたか。
提出レポート	大学の授業などで作成したレポートについての記録をまとめてみて下さい。どのようなレポートを作成しましたか。また、レポートを通して、どのような知見が得られましたか。
卒論のテーマ	論文のテーマ（予定を含む）は、何ですか。どのような内容になる予定ですか。また、そのテーマを選んだ理由やきっかけは何であり、どのような結論が得られそうですか。
読書	大学の授業やそれ以外で読んだ図書についての記録をまとめましょう。どのようなテーマの本を読みましたか。また特に、関心を持った図書のタイトルや内容などを記録して下さい。
(2) 大学での学び2（任意）	
学生発表会・法政論集への寄稿	学生発表会、合同ゼミ等で報告を行った場合、法政論集への寄稿をした場合、どのような報告、寄稿をしましたか。また、どのような成果が得られましたか。
社会見学	大学の授業などで、裁判傍聴や会社見学などに行った場合、その内容や経験を記録としてまとめてみて下さい。どこに見学に行き、何を学びましたか。
インターカレッジ	ゼミやサークル活動などでの他大学の学生との交流の記録をまとめてみて下さい。どのような活動をしましたか。それを通して、何を学びましたか。
講演会・セミナー等	大学での勉強に関係して、学内外で行われるセミナーや講演会に参加した記録をまとめてみて下さい。どのような講演会やセミナーに参加しましたか。そこで、何を学び、何を得ましたか。
友人・教員との意見交換や発表	大学での学習を行うにあたり、友人・先輩・授業担当教員・指導教員といった周囲の人の協力を得ながら勉強する機会がありましたか。あった場合は、そこから得られたものを記録して下さい。
法律専門職のための勉強	法律専門職（法科大学院進学、司法試験予備試験受験、司法書士、行政書士等）向けの勉強をしている場合は、その内容についてまとめてみて下さい。どの職種を志望していますか。どのように勉強していますか。友人や教員の協力を得ながら勉強する機会がありましたか。
その他	「大学での学び」に関連して上記の項目にあてはまらない内容、あるいは分類が全体的になるような目標や実践項目があれば記入して下さい。
(3) 大学外での学び	
資格取得のための学習	資格等（TOEIC、TOEFL、外国語検定、法学検定、行政書士、宅建、運転免許など）を取得するための学習や取り組みについて記入します。各種資格を取るにあたって、自分の立てた目標と達成状況を書くことで、取得の経過についても振り返りを行うことができます。
留学・語学研修	留学や語学研修も含め、国際交流に関係する活動を行っていただければ記入して下さい。実際に海外へ行った場合に限らず、外国人留学生との交流（チューター、サークルでの交流など）を通じた経験や、広く語学向上のための取り組み（English cafe への参加など）等も含めることができます。
大学外の課程での学習	英会話教室や資格取得に関係する予備校など、大学外の学習機関に通い学んだ内容を記入します。特に該当するものがなければ何も書く必要はありません。
各自の関心に基づく学習	自らの興味のあることを書籍やインターネットで学ぶといった、大学の授業とは関係なく知識の探求を行ったことがあれば、その内容を記入して下さい。学習できたことについて簡単に書いて下さい。
新聞・ニュース等での学習	新聞・ニュース等を読む中で、自分なりに関心のあるテーマ・ニュースは何でしたか。就職の面接では、このような点についてあなたの意見が問われることがあります。
その他	「大学外での学び」に関連して上記の項目にあてはまらない内容、あるいは分類が全体的になるような目標や実践項目があれば記入して下さい。
(4) 課外活動の取り組み	
部活動・サークル	学内で取り組む部活動やサークルでの経験をまとめます。大会などの結果だけでなく、取り組みを通じた自分の変化（意識、習慣）やチーム内での役割（自分とメンバーとの関係、プロセス）に注目して記録して下さい。
アルバイト	アルバイトは単に収入を得るだけでなく、社会とつながる貴重な場所です。仕事内容を通して自分と社会とのつながりを想像しながらまとめて下さい。始めたきっかけ、当初期待していたこと、周りのメンバーの様子、自分の役割、できなかったこと、できるようになったこと、認められたこと、注意を受けたことなど小さな体験、気づきを入力していけば、ものの見方や視点の違いなどの自分の変化も振り返ることができます。

目標区分	説明
ボランティア・地域活動	地域行事への参加、各種イベントのサポーター、ボランティア団体との関わりなど、地域社会と連携した取り組みと、その取り組みを通じて学んだことをまとめて下さい。組織的な活動に限らず、地域の方との交流など日常的な行動もまとめて下さい。
学外団体での活動	地域とは直接関わりのない組織や団体での取り組みについてまとめて下さい。「部活動・サークル」「アルバイト」「ボランティア・地域活動」の説明を参考にしながらまとめて下さい。
その他	「課外活動の取り組み」に関連して上記の項目にあてはまらない内容、あるいは分類が全体的になるような目標や実践項目があれば記入して下さい。
(5) キャリアデザイン	
職業・業界研究	将来就きたい職業や興味のある業界について収集した情報を記入します。情報収集する上では、主観的な意見や考えばかりを取り上げず、客観的な根拠やデータを用い自分なりの考察を加えるとよいです。また、将来の進路選択につなげるには、関連する職業や利害関係、現状の課題などについて視野を広くし、捉えていくことが望まれます。
就職活動準備	学内の就職ガイダンスで得た情報について記入して下さい。その上で、今後の就職活動にとって必要な準備が何かを記入していきましょう。就職は大学受験と違い、客観的な点数で評価されるものばかりではありません。特に選考で重視される面接では、表情や会話での印象など応募先の主観的な評価によっても結果が異なります。選否側の視点に立った準備が望まれます。
インターンシップ・就業体験	インターンシップでどのような経験をし、どのような成果が得られたのか、記入して下さい。インターンシップは1年生から参加できるプログラムや学外にも多様な機会があります。積極的に参加し大学での学びや将来の進路選択に活かして下さい。ただし参加するだけでは活かすことはできません。事前学習として体験場所や仕事内容についての理解を進め「問い」を立て、体験を通じてその問いを検証して下さい。
キャリア・就職関連セミナー参加	大学や外部団体が主催するセミナーやガイダンス、講演会などに参加した場合、開催概要とともに学んだこと、気づいたことをまとめましょう。また、それを踏まえて、今後、取り組みたい課題を記入して下さい。
その他	「キャリアデザイン」の分野に関連して、上記の項目にあてはまらない内容、あるいは分類が全体的になるような目標や実践項目があれば記入して下さい。
(6) パーソナリティ	
自分の長所と短所	就職活動では自分の長所と短所について質問されることがあります。自分の長所と短所は何であり、長所を伸ばし、短所を改善するために努力したことを記入して下さい。箇条書きでも構いません。
趣味の充実	学業の分野に限らず、自分の趣味についてどれだけ深められたか振り返ってみます。昔から好きだったことその他、新しく趣味に出来たことについても記入してみてください。
日常生活	健康のため日頃から心掛けている習慣、学業以外のプライベートな生活時間を確保するための努力、あるいは将来の生活で役立つような知識やスキルを身につけるといった、自分が普段意識的に行っている事柄を記入します。
運動・芸術等の取り組み	体力づくりや芸術的の分野に対する理解について、何かしらの取り組みを行っていただければ記入します。
その他	「パーソナリティ」の分野に関連して、上記の項目にあてはまらない内容、あるいは分類が全体的になるような目標や実践項目があれば記入して下さい。
(7) その他	
自由記述	自分なりの視点から、独自の目標設定や実践した内容の記録を残したい事柄があれば、自由に記述して下さい。

■ 学修成果シートの各目標区分に入力する1～5の自己評価の説明は、下表のとおりです。

自己評価	評価の基準
5	大いに実践できた
4	実践できた
3	どちらともいえない
2	あまりできなかった
1	全くできなかった

[4] 法学科における運用方針

キャリアポートフォリオの全学運用開始に合わせ、法学科では独自に入力項目をカスタマイズした**法学科学生向けの「学習成果シート」**を作成し、平成26年度後期より公開しています。

その主なねらいは、キャリアポートフォリオの全体コンセプトの説明内にもあるように、日頃から就職や進学等を意識した取り組みを行ってもらうことにあります。

法学科学生（昼間）の皆さんについては、「学習成果シート」の作成を必須とします。以下の留意事項を確認の上、ぜひ有効に活用してください。

平成26年後期 法学科ポートフォリオの利用状況調査

(集計期間 H26.10.1～H27.3.2-10:10)

【学年別集計】

学年	全体	目標提出		目標既読	目標コメント	成果提出		成果既読	成果コメント
学部1年	97	13	13.4%	14		80	82.5%	65	2
学部2年	89	35	39.3%	24	1	72	80.9%	46	19
学部3年	91	25	27.5%	15		55	60.4%	35	17
学部4年	104	1	1.0%	2		2	1.9%		
総計	381	74	19.4%	55	1	209	54.9%	146	38

※抽出対象は人文社会科学部法学科(昼間)と人文学部法学科(昼間)のみ。

※同一学生・教員が複数回登録処理をした場合は、1件としてカウントしている。

※提出人数等は操作ログから集計しているため、その後に取り消しを行った場合でも件数に加えられている。

※学年は学籍番号の入学年度の数字から算出。

平成26年後期 キャリアポートフォリオ機能別利用状況

(集計期間 H26.10.1～H27.3.2-10:10)

【学部別集計】

学部名	目標登録	成果登録	評価登録	Liveノート登録	自分史登録	備考
人文社会科学部	92	199	205	2	1	
人文社会科学部(夜間主)	3	1	3			
教育学部	18	15	16		1	
教育学研究科(専門職)		1	1			
理学部	4					
工学部	4	3	5		1	
農学部	1		2			
情報学部	8	1	3		1	
情報学研究科	1					
総計	131	220	235	2	4	

【学年別集計】

学年	目標登録	成果登録	評価登録	Liveノート登録	自分史登録	備考
学部1年	37	88	95	2	1	
学部2年	56	75	81		2	
学部3年	31	52	53			
学部4年	6	4	5		1	
大学院2年	1	1	1			
総計	131	220	235	2	4	

※「登録者数」は一時保存も含め、登録ボタンを押した学生の数。

※同一学生が複数回登録処理をした場合は、1件としてカウントしている。

※学年は学籍番号の入学年度の数字から算出。

※人文社会科学部と人文学部は合算して集計している。

※平成26年10月1日から人文社会科学部法学科(昼間)において、組織的運用が開始されている。

…今回法学科では平成27年2月15日を締切日として、成果登録の部分を必須扱いとしている。

＜学生＞

- ・将来のキャリア形成のために現在の学びがいかにか活かされるか、これから何を学ぶべきかを意識化する。
- ・大学生活における目標活動成果のサイクルを蓄積することで、これから大学生活をするにあたりどのような目的意識を持てば良いのか、定期的に振り返る。
- ・就職活動中の面接において、これまでどのような経験を積み、知識を得て、成長したかを把握する際に、ポートフォリオの記載内容を役立てる。

eポートフォリオ・システム

＜学生＞

半期毎に、キャリア実現のための目標設定・達成状況を記載する。
学習・課外活動・ボランティア活動・学内外の体験型学習への参加・各種資格取得、などの情報等を記載する。

＜指導教員＞

学習情報の共有
学生への面談・アドバイスの実施

＜就職支援課＞

学習情報の共有
学生への面談・アドバイスの実施

＜就職支援課＞

- ・「就職相談室」において学生情報を共有する。
- ・「キャリアカウンセラー」による「就職相談」においてポートフォリオを活用する。
- ・日頃の学生の取り組みを踏まえた進路指導、面接指導を行う。

＜指導教員＞

- ・「指導教員」が担当学生一人一人のポートフォリオを担当・サポートする。
- ・指導教員が、各学期毎に目標・達成を閲覧・面談・アドバイス等を行う。
- ・学生情報を踏まえた、学習支援・進路指導を行う。

キャリア形成

エントリーシート・就職面接で活用